

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400465		
法人名	有限会社 夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・正木		
所在地	岐阜県羽島市正木町新井4丁目945番地		
自己評価作成日	平成22.12.4	評価結果市町村受理日	平成23年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170400465&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南瀬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成22年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周りに田畑が多く散歩するのにとても良くゆっくり季節感を味わう事ができる。庭も広くて、四季の花を植えて楽しまれ畑では野菜を作り収穫を楽しみ、又近所へ差し上げ交流しています。散歩道のゴミ拾いも月1回利用者、職員で行い地域に少しでも役立つかと思っている。中学生の職場体験もあり、孫のような子供さんとも楽しく交流されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所では、今年度より地域とのつながりをより深めるため、利用者職員全員でホームの周りのゴミ拾いを定期的に行っており、近隣住民への感謝の気持ちを表すとともに、“人の役にたっている”と利用者の励みにもつながっている。ケアプランは利用者一人ひとりが、どのように過ごしたいかという視点に立って作成されており、ケアマネージャーを中心に全職員で利用者の状態を把握、共有し、話し合いを重ね、より良いケアに活かしている。またホーム内には利用者の作品が飾られ、季節感とともに親しみのある和やかな雰囲気を感じることができる。職員間のチームワークが良く、近年離職者が出ていない。管理者の「暖かいホームにしたい」という熱い思いに職員全員が共感し、利用者に寄り添いながらケアに当たっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	広間の職員に一番見やすいところに理念を掲げています。 ミーティングの時には全員で読み共有実践につなげています。	“安全で安心感のある暮らし”を基本に、全職員が事業所理念を各々のケアにつなげ取り組んでいる。ミーティングや日常の現場でも、行っている支援が理念からずれていないか確認し合い職員間で共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの周りには農道も多く畑仕事の方と話したり、ドックサロンに行って犬を通して会話できます。町内の運動会、祭りにも参加しています。	地域とのつながりを深めるため、事業所の周りのゴミ拾いを利用者、職員全員で定期的に行っている。また地元中学校の職場体験学習も受け入れており、地域の中で事業所が担える活動に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献に少しでも役立てばとの思いから利用者様、スタッフで散歩コースのゴミ拾いを月1回で実践しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の散歩時には、元気ですか頑張つてと声を掛けてもらいます。ホームの前の道も修理していただきました。犬のフン捨て注意の立て札も頂きました。	行政職員、利用者、家族、市議員、ホーム職員の出席により、二か月に一度開催している。防災訓練や音楽療法を合わせて行うなど、ホームの取り組みや利用者の様子を見てもらい、意見を出して頂けるよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご家族のおられない利用者様の後見人の話もしてもらいました。生活保護の方の生活も見てくださいしています。	運営推進会議には市高齢福祉課又は地域包括支援センターの出席があり、ホームの現状について理解を得ている。生活保護を受けている利用者や家族のいない利用者については、頻りに連絡をとり共に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守りで庭では自由に運動されています。 花壇の草花を取って部屋に飾っています。	玄関の施錠も含め身体拘束を行わない方針を掲げている。現在は入居間がない利用者がおり不穏な状態が続いているため、安全を考慮し玄関を施錠している。この場合も全家族に同意をとった上で実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を受け全職員で勉強会をしている。 事故・ケガが発生した場合はすぐ家族に連絡し説明しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修受けました。 ホームでは成年後見人、きずなの会と2名の方が入っておられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分な説明と入所前見学をしてもらっています。 入院後の退所は有りますが、入院中は身の回りの世話を面会し行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様、利用者、ケアマネージャーや管理者で意見を交わし必要であれば医師も交えて話し合い運営に反映させている。	介護記録とは別に利用者ごとのノートがあり、一人ひとりの詳しい状態や特記事項が書かれ、家族にも見せ意見をもらっている。また全家族に対し満足度アンケートをとり、ホームの運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1-2回ケアマネージャーを交えて勉強会、ミーティングを行い意見の交換をしている。	申し送りノート以外に職員の意見交換ノートがあり、ミーティングの場だけでなく、思ったことが言える機会を作っている。管理者はそこで出された職員の意見を受け止め、運営に活かすよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者、職員個々は勤務状況を十分把握して各自が向上心を持って働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修はできる限り全職員が受けるよう努力している。 研修後は研修内容を勉強会で発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は研修を通して行いよい事はホームでも取り入れるようにしている。他ホームの見学も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家、病院に訪問・面接しケアマネジャーと共に思いを伺っている。又ホームの入所前の見学もしてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族に面談し要望を把握している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や居宅のケアマネジャー、ホームのケアマネジャー、主任など関係者で集まり必要なサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は親、兄姉に接するように話をしたり、昔の人の知恵を教えてもらったりしている。楽しく暖かい関係を保って暮らしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者本人の間に立って時々旅行につれていただいたり、外食や自宅へ連れて行ってもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとってなじみの人や場所は経営者が外出援助している。家族と行かれる事もある。	入居時の聞き取りで、本人や家族との会話の中からその方の生活背景を知り、馴染みの人や場の関係を把握している。お墓参りに行きたいと言われ、同行した職員と共にお墓を探しお参りしたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士気の合う人たちが話ができるよういすを用意したり、食事が楽しくできるような場所を考えたり散歩を共に仲良くできるよう考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気によってはやむなく退所される場合がありますが、電話し様子を伺ったり面会でできれば行って元気付けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望を夕方のお茶の時に聞いてミーティングの題として職員で話し合っている。できる限りの希望に添うようにしている。	夕食後のお茶の時間は、職員も他の事はせず、ゆっくりと利用者と話し、思いを聴く時間としている。また言葉で表せない利用者については、表情や態度から思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族、本人からの話を聞いてケアマネージャーと相談しサービスを考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の生活自立度によってその日の気分に合わせて一日のサービスを考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の考え意見を聞いてケアマネージャー、職員がサービス内容を作成しそのサービス内容に添った介護をしている。	利用前に代表、管理者、ケアマネージャーが訪問し、本人や家族よりアセスメントをし、ケアプランを作成している。サービス実施後は現場職員の意見を取り入れ評価を行い、3ヶ月ごとのプランの見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌、申し送りノートを見てその日の状況を確実に知る、伝える、を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送りには必ず目を通しサインをする。利用者の1日の状況を職員同士伝達必要があれば、医師、家族との連絡をとり対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	田畑の中にあるホームなのでのんびりと散歩を楽しむことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に医療所は選んでいる。入院医療所も連絡できるようになっている。	2名の利用者が入居前のかかりつけ医による継続支援であり、週一回の往診がある。協力医の往診も月二回ある。病状の変化等の病院受診の際は職員が同行し、家族とはその都度情報の共有も出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の中に准看護師がいるので聞いたり医師との連携をとって指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族の了解を取って医師、看護師の方より、個人情報も聞くことができるようにして毎月または、1日毎に面会し世話をし病状を聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケア研修は受けました。今のところホームではしていません。入院され終末期を迎えられる方針になっています。	契約時にホームの方針として看取りを行わない説明がされ、家族や後見人の同意を得ている。現在は協力医、かかりつけ医の協力を得て、ホームで可能な限りのケアを行っているが、医療行為が終日必要となった場合には医療機関に移ってもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の研修は職員全員が年数回受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年数回受けています。通報訓練も全職員が受けて対応も職員にそれぞれ決めて訓練している。	年2回消防署立ち合いの訓練があり、又運営推進会議に合わせ年2回の避難誘導訓練も実施している。さらに夜間を想定し、職員一名による訓練を行うなど努力がみられる。備蓄品の用意も十分されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格や身体状況に合わせた対応を全職員ができるように心掛けている。	職員は利用者の生活暦や状態を把握しており、一人ひとりに合わせ親しみのある言葉かけや対応を行っている。しかし家族のような関わりをする中で、利用者の尊厳を守りきれていない場面も一部見られる。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応について、職員会議で確認するなど、事業所全体での取り組みを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散髪は利用者の好みに応じ職員が行っている。食事好みも聞いて献立を考えている。外食、散歩も希望者で行く事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の気分も考えて利用者のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に応じた散髪をしている。洋服も季節に応じ考えて、アドバイスもするときもある。好みの服を家族と買いに行かれる事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	花見には弁当をつくり外で食べます。バーベキューもします。外での食事は皆さん手伝って作り楽しめます。おはぎもおいなりさんも作られます。	利用者が畑で栽培し収穫した野菜が食卓に上がり、食べる楽しみにつながっている。また野菜の皮むきやすじ取り、春のつくしのはかま取りなど、女性ばかりでなく男性利用者も楽しんで参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取は毎日記録して一人一人の摂取量を確認します。塩分、糖分も利用者によって注意して血糖値も計っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの指導は職員全員が受けています。ケア用のペーパーストロボも使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助の利用者1名オムツですが他は布パンツ使用。夜間はトレーニングパンツで声掛けしトイレ介助します。オムツ0が目標です。	排泄パターンに合わせ利用者個々に対応がされている。入居前オムツを使用していた人が、リハビリパンツ、次に布パンツと段階的に変わり、一部介助でトイレでの排泄が可能となったこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に食事の献立は果物、繊維質の野菜を毎食何か使います。サツマイモ菓子カンテン菓子も手作りします。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は決まっていますが夏は休まれる前に希望者はシャワーを使っています。わくわくの湯にも出掛けます。	入浴は夏と冬それぞれの対応があり、冬は週2回午前中の利用となっている。それ以外の入浴も可能である。冬は希望があれば足浴もあり、廃材のボトルを利用した湯たんぽで安眠出来る工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	21時消灯となっていますが部屋でイヤホン使用しテレビを見られる方もおられます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示において服薬支援をしていますが副作用、用法用量について往診ノート申し送りノートに記入し職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の部屋の掃除をされる利用者さん洗濯物は自分自分で女性の方はたたまれます。自分の部屋に女性は花を飾っておられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩、外気浴をされます。近所の菓子店へ全員のおやつも買いに行きます。家族と旅行、外食もされます。	日常的にホームの周りを散歩したり、敷地内の花壇や畑の手入れをする事で外気浴となっている。喫茶店や外食へ出かけたり、全員で花見に出向くこともある。また個別対応で墓参りや、家族の協力を得て小旅行に出かける利用者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている利用者は今はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば使用してもらっている。手紙も希望があれば便箋ハガキを用意して渡します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花を飾ります。植木鉢の花があります。壁には利用者の作品も飾ってあります。レンコンの実アートを作りました。造花のアレンジもしました。	居間や食堂などの共用部分は入居者の季節感あふれる作品で飾られ、温かく安心できる空間となっている。飾ってある作品も一人ひとりの人柄が出て微笑ましい。利用者は日中それぞれの部屋から出て、この場所に集まり、穏やかに寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士それぞれの部屋に行ってテレビ見たり話をされたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の好むものをおいておられる。女性の方は花を飾られています。	お気に入りの歌手のポスターが壁一面に貼られた部屋、仕事をしていた時の写真が置かれた部屋、自分の作品が飾られた部屋など、馴染みの家具とともに、まさに自分の家という雰囲気が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考えてトイレ風呂玄関に手すりがあり自分で排泄入浴ができるよう工夫されている。		